

早朝の研究都市は、まだ薄い霧に包まれていた。中心部にそびえる総合観測塔では、最新型の環境解析装置が静かに稼働し、地球全体の気候変動を精密に記録していた。塔の内部には、複雑な数値が連続的に表示され、まるで未来の姿がそのまま映し出されているかのような緊張感が漂っていた。

その日、特別な見学会に招かれた子どもたちは、研究主任の案内で巨大な球体装置の前に立った。その装置は「地球環境予測模型」と呼ばれ、気温、海流、大気組成、生態系の変化など、多岐にわたる要素を同時に再現できる高度な機械だった。球体の内部では、微細な粒子が複雑に循環し、地球の未来を象徴するような光景が立体的に浮かび上がっていた。

研究主任が操作盤に触れると、球体は淡い光を放ち、二つの異なる未来が映像として現れた。一つ目は、資源が枯渇し、生態系が崩壊した荒廃した世界である。森林はほとんど消え、海は濁り、空気は灰色にくすんでいた。人々の生活は不安定で、環境の悪化が日常のあらゆる場面に影響を及ぼしていた。

もう一つの未来は、それとは対照的に、協力と努力によって環境が回復した豊かな世界だった。森は再び広がり、川は透明な水をたたえ、町には活気と笑顔が満ちていた。人々は資源を大切に扱い、自然と調和しながら暮らしていた。

子どもたちは、二つの未来を見比べながら、自分たちの行動がどれほど大きな影響を持つのかを真剣に考え始めた。未来は遠くにあるものではなく、日々の選択の積み重ねによって形づくられていくという事実が、静かに胸に刻まれていったのである。